

肥料に係る安定供給確保を図るための取組方針案についての  
意見・情報の募集の結果について

令和4年12月27日  
農林水産省農産局

「肥料に係る安定供給確保を図るための取組方針案」について、令和4年11月24日から令和4年12月8日までの期間、広く国民の皆様から意見・情報を募集するパブリック・コメントを実施したところです。

その結果、募集期間において、当該案に対する御意見等が1件寄せられました。御意見に対する考え方は以下のとおりです。

いただいた御意見を考慮した結果、当初案のとおり、肥料に係る安定供給を図るための取組方針を公表することとしましたのでお知らせいたします。

御意見の要旨	御意見に対する考え方
<p>肥料に係る安定供給確保を図るための取組方針（仮称）案（以下「素案」という）においては、リン酸アンモニウム（以下「磷安」という）と塩化カリウム（以下「カリ」という）のみが備蓄の対象となりました。</p> <p>磷安を中国に過度に依存し、カリがロシア・ベラルーシ・カナダに偏在していることを考えると、鉱物肥料の在庫として真っ先に選ばれるのは妥当と考えます。ただ、窒素肥料の代表格である硫安や尿素が素案から抜け落ちているのは問題であると思います。素案では備蓄を主眼に置いているので、吸湿性の問題で備蓄が難しい硫安・尿素を素案に盛り込むことが困難なことは理解できますが、現在、窒素肥料を取り巻く情勢は厳しさを増しています。そのため、「窒素肥料の自給率を高めるための何らかの措置」が今後素案に必要であると考えます。</p> <p>現在、国内のアンモニアの製造には強い逆風が吹いております。アンモニア製造時にCO<sub>2</sub>を排出することから、アンモニア製造からの撤退を表明している会社もあります。そのような状況下にあって、重要な国産窒素肥料である硫安・尿素の国内製造は盤石とは言えません。</p> <p>また、有事においても混乱を引き起こしやすい物資であるともいえます。昨年12月にアンモニア・尿素が高騰した際、韓国では尿素不足からディーゼルエンジン脱硝用尿素が不足し、社会が大混乱を起こしました。中国が国内農家保護を名目に肥料の輸出規制を始めたこと</p>	<p>本取組方針案においては、肥料原料のうち、主要な肥料成分の供給源である一方、粗原料である天然資源が特定の国に偏在しており、近年供給リスクが顕在化しているりん酸アンモニウム及び塩化カリウムについて、備蓄のための支援措置を講ずることとしています。</p> <p>一方、尿素や硫酸アンモニウム等の窒素質の原料については、主に天然ガスを粗原料としており、代替国の選択肢が広いこと等から、本取組方針案における支援措置の対象とはしていません。しかしながら、一方で、窒素質の原料も、主要な肥料成分の供給源であることから、今後も肥料関係事業者等からの情報収集を継続し、肥料原料の需給動向に応じて必要な対応を講じてまいります。</p>

が大きな背景となっており、この混乱に日本が巻きこまれなかったのは国産のアンモニア・尿素の製造があったことが非常に大きいと考えられます。

仮に日本がアンモニア・尿素の国内製造から撤退することになれば、昨年の韓国のような大混乱に巻き込まれる恐れがあるだけでなく、日本と韓国が尿素の調達合戦を繰り広げて価格が一層高騰するといった懸念も十分に考えられます。

また、台湾海峡有事を考えた場合、台湾海峡やバシー海峡が封鎖されるだけでなく、南シナ海の安全航行も難しくなり、マラッカ海峡を船舶が超えてくるのかも疑問です。有事となれば輸出規制は正当化され、多くの国が自国を優先して内向きになることが予想されます。ウクライナ戦争がロシアの体制崩壊に繋がるリスクもぬぐえないことから、燐安・カリだけでなく、硫安や尿素、その川上にあるアンモニアについても今後素案でケアしていく必要があると考えます。

現在、国内アンモニア製造時に発生しているCO<sub>2</sub>は、溶接やドライアイス、清涼飲料用、化学原料用など様々な形で必要不可欠な産業ガスとして利用されており、国産アンモニアに対し「ブルーアンモニア」であるとの認識を示していただくことも、国産アンモニア、国産硫安・尿素を製造する上で重要な支援になってくると考えます。この点において、素案とは別になるかもしれませんが何らかの形で盛り込んでいただきたいと思います。

